

令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	ひろしまオペラ・音楽推進委員会	
施 設 名	アステールプラザ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内 定 額 (総 額)	15,212	(千円)
	公 演 事 業	15,212 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オペラ公演「ドン・ジョヴァンニ」	令和3年8月21日、 22日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	1,500
		大ホール		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>広島市は、中国・四国地方の中心都市として経済・文化の牽引役を担っており、世界史上初めて核兵器（原子爆弾）で爆撃された都市として、世界的に高い知名度を有している。</p> <p>こうしたことから、都市像に「国際平和文化都市」を掲げ、世界の国・人との連帯による世界恒久平和の実現、豊かな文化と人間性を育む都市づくり、文化芸術をはじめとした様々な分野で活発な国際交流や国際協力を推進し、世界に開かれた活力ある都市を目指しており、当劇場はこの実現を目指す文化芸術面での中心的な役割を發揮することが使命となっている。</p> <p>これらを踏まえて、当劇場では『文化芸術を創造し、感動と希望をもたらす地域文化の拠点として、人を「つくる」、文化を「つくる」、まちを「つくる」創造劇場から個性と魅力ある都市文化の形成』を目標に掲げ、助成を受けた公演事業については、令和3年8月21日（土）、22日（日）にオペラ「ドン・ジョヴァンニ」の上演を計画し、芸術監督を置き、国内外で活躍するトップクラスの指導者とスタッフを揃えて、キャストの募集・オーディションの実施・稽古・公演までの全てを当劇場で行う創造型のプロデュース公演の制作に取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染症の影響により公演制作の最終段階で中止となった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>当劇場のプロデュース公演では、国内外で活躍するトップクラスの指導者を起用することから、広島市内在住者のみならず近隣都市からも多数の参加者があり、近隣都市圏を含めた文化発展の牽引役を担っている。また、豊かな文化を育む高レベルの文化創造活動が行えることは、日常の生活に喜びを感じることができる平和な都市の証であるという平和文化の振興を発信している。</p> <p>このように当劇場の文化芸術活動は、地域における文化芸術活動のフラッグシップとなり、芸術家等の目標として地域の文化発展に大きく寄与している。令和3年度の助成を受けた公演事業のオペラ「ドン・ジョヴァンニ」は、新型コロナウイルス感染症の影響により公演制作の最終段階で中止となったが、前述のとおり、継続して助成に値する意義が認められるものであると考える。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

助成を受けた公演事業については、以下のとおり目標を設定してオペラ「ドン・ジョヴァンニ」の制作に取り組んだが、新型コロナウイルス感染症の影響により公演制作の最終段階で公演中止となった。

- ①『広島で創られるオペラ公演や現代音楽等の公演を広島の「誇り」と思ってもらえること』
- ②『オペラの創造活動により地域の音楽芸術活動と人材育成に貢献すること』
- ③『優れた舞台芸術を広く周知し、多くの市民に伝えること』

上演は実現しなかったが、8月3日に中止を決定するまでに進めてきたキャスト募集・オーディション実施、指揮者や演出家による稽古等の公演制作及び広報等の活動を通じて、次のとおり成果があった。

- ・ オーディションには全国からの参加があり、全国的に認知されている公演として、市民が誇りに思える事業となっている。
- ・ 全国のオペラや音楽における第一線の現場で活躍する指揮者と演出家、さらには舞台制作を支える経験豊富な一流の舞台スタッフらとの創造活動により、人材育成が図られた。
- ・ 公演中止となったため、市民への公演を提供できなかったが、新聞広告をはじめ幅広く広報を行い市民へ周知を図ることができた。

コロナ禍で移動が制限され活動において様々な制約がある中で、当劇場において演出家・指揮者・キャスト・スタッフが協力して作品創りに取り組む活動が、人材育成をはじめ個性と魅力ある都市文化を形成する劇場・音楽堂としての機能を発揮した。これは、“オペラのまち広島”を標榜しオペラの普及・定着を目指して全国発信を続けてきた成果と言える。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業のオペラ「ドン・ジョヴァンニ」は、当初の計画では、令和3年4月11日のキャストオーディションから、8月21日、22日の公演までの5か月間に亘って取り組む予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、8月3日に公演及びそれに伴う稽古・準備等が中止となった。

中止となるまでには、オーディションによるキャスト決定後からのコレペティ稽古、指揮者による音楽稽古や演出家テーブル稽古、衣裳合わせ等を計画どおり実施したほか、舞台装置や中・小道具等の製作・借上等の準備、そして、広報及びチケット販売を計画どおり進めていた。しかしながら、立ち稽古直前で中止を余儀なくされた。なお、公演は令和4年度に延期する。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業のオペラ「ドン・ジョヴァンニ」は、新型コロナウイルス感染症の影響により準備段階で中止となったため、収入については、入場料収入の全額減と、一部の民間助成金の辞退により大幅に減額となった。

一方、支出については、中止となるまでに実施した稽古等に係る演出・指揮・キャスト・スタッフの謝礼や舞台製作に係る大道具製作費、衣裳の借上げ料、広報に係る印刷物や宣伝費等の履行済分の経費が発生したほか、オーケストラ譜のキャンセル料やチケット払戻し費用、コロナ対策費が生じたが、最終的に当初予算からは大幅に減額となった。

このように、公演中止に伴い当初の計画通りに進まず、収入・支出とも大きく変動したが、コロナ禍という通常と異なる状況下において適切に運営したと考える。

なお、入場料収入が全額減の状況において、準備で生じた経費を対象経費として助成していただいた貴助成には大変感謝しています。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

広島市の文化拠点として位置付けられるためには、文化を創造発展させ魅力的な個性を発揮する活動の「場」、そして市民文化の創造と発展の象徴として、市民の誇りとなる文化芸術の「創造活動」のそれぞれが効果的に行われる必要がある。

当劇場の設備は、大・中のホール他に上演形式にとらわれずに使用できる多目的スタジオ、そして中四国で唯一のプロオーケストラである広島交響楽団の専用練習場ではあるが、使用されない時には室内楽の演奏会の他市民オーケストラや合唱の練習などとしても利用できるオーケストラ等練習場といった上演会場を有するだけでなく、実演芸術の創造活動に欠かせない練習室や音楽室といった練習会場機能を併せ持ち、これらを最大限活用しての創造型事業を中軸に取り組んでいる。

事業体系としては、「音楽」「演劇」「ダンス」を取り上げ、現代音楽やコンテンポラリーダンスなど新しい文化の創造にも挑戦し、広島文化シンボルとして相応しい事業を展開している。取り組みにおける特徴として《創造》《育成》《提供》《普及》の4点があげられるが、具体的には、《創造》は優れた演出家等のスタッフによる高水準の「プロデュース公演」をオペラ、演劇、バレエ、コンテンポラリーダンスにおいて制作・公演。《育成》は、オペラ、演劇、バレエ、コンテンポラリーダンスのワークショップの開催。《提供》は演劇、ダンス、オペラ、クラシック音楽、伝統芸能等の公演を、共催も含めて多数の鑑賞機会を市民へ提供。《普及》は文化芸術の普及・啓発を行うため、オペラ出前コンサートやオペラコンサートの開催である。

これら事業において、助成を受けた公演事業のオペラ「ドン・ジョヴァンニ」は、当劇場でオペラ事業を開始してから4半世紀の蓄積の中で、モーツァルト作品を計11回上演するなどアンサンブルの力を磨いてきたことが継続・発展の大きな要因であることを踏まえて、平成29年度から3年間かけて取り組んだ「オペラ・ブッフア」（喜劇）、「オペラ・セーリア」（神話等が題材）、「ジングシュピール」（歌芝居）というモーツァルトの系譜を紹介したシリーズに続く次のステップとして、演出家の岩田達宗氏を芸術監督に迎え、〈アンサンブルの探求〉を掲げ、これまで培ってきたアンサンブルの魅力を更に高めて市民に提供する「アンサンブル シアターシリーズ」に取り組んだ初年度で、指導者やスタッフが広島に滞在して劇場でじっくり制作する手法により、文化拠点としての機能を十分発揮した創造性の高い作品を上演する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により準備段階で中止となった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

助成を受けた公演事業のオペラ「ドン・ジョヴァンニ」は、指導者やスタッフが広島に滞在して劇場でじっくり制作するプロデュース公演で、当劇場を拠点として地域の文化芸術公演におけるフラッグシップとなり、牽引するに相応しい創造性の高い公演を制作し、文化拠点としての機能を十分発揮するものであるが、新型コロナウイルス感染症の影響により公演制作の最終段階で中止となった。しかし、中止となるまでの期間に当劇場において演出家・指揮者・キャスト・スタッフが協力して作品創りに取り組む活動は、人材育成をはじめ個性と魅力ある都市文化を形成する劇場・音楽堂としての機能を発揮した。

また、助成事業であるオペラとクラシック・現代音楽においては、マスコミや行政、音楽関係者からなる委員会を組織し、事務局をアステールプラザに置いて運営しており、地域団体のニーズと要求に応じており、地域ニーズを踏まえた実演芸術の振興と地域文化の発展に寄与している。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当劇場の運営に係る主な業務は、「使用許可」（諸室の貸出、受付、利用案内等）、「施設・設備の維持管理」（駐車場、施設・設備の保守、設備機器の運転操作、警備、清掃等）、「広報」（施設案内パンフレット作成、ホームページの運営等）、「ホール管理」（利用打合せ、舞台設備の操作・管理等）、「事業の実施」（オペラ、クラシック・現代音楽、演劇、バレエ、文化情報の収集等）と多岐にわたっており、「管理担当」と「事業担当」の2担当制で相互に協力しあいながらあたっている。

<人材面>

これらの業務を行うため、劇場運営の経験豊富な専門知識のある職員を適材適所に必要人数配置し、サービスの維持・向上を図り、12時間の開館時間内をローテーション体制で運営しているが、これを継続して安定的に遂行するため、職員の能力向上はもとより、職員一人ひとりの勤務意欲と能力を一層向上させるなど、人的資源を最大限活用していくシステム作りが必要なため、「接客能力の向上」、「管理運営能力の向上」、「舞台技術能力の向上」、「アートマネジメント能力の向上」といった視点を持って運営に当たることのできる人材の育成を目指している。また、より効果を高めるために職員が個々に自己目標を設定して自身の能力開発・向上を図り、管理者が職員の目標の達成状況を適切に評価し、適材適所の人事管理を行うことで、組織全体の業務能力とモチベーションの向上を図るよう取り組んでいる。

<財務面>

劇場運営に当たっては、財源の確保が重要課題である。このため、利用者のニーズを踏まえ、利用に関する情報の提供やニーズに即したサービスを行い、多くの方々に当劇場を地域の文化拠点施設として利用していただき、会場利用料や鑑賞料収入を確保し、安定した劇場運営と事業運営を行うため、次のサービスに取り組むなど収入の確保を図っている。

- ・ホール利用について、キャンセルが生じた場合は、ホームページでキャンセル情報を周知。
- ・ホールで、仕込み・リハーサル・本番と連続して利用しなければ公演が成立しない利用については、連続利用の優先予約制度を導入。
- ・大規模事業の優先利用の制度を導入し、大規模大会の誘致。
- ・ホールの空きを有効利用するため、2か月前など一定の期間を経過した場合は割引で提供。

<施設面>

劇場を安心・安全に提供することは管理者としての重要な使命であり、主に次のとおり取り組んでいる。

- ・条例や規則に沿って、全ての利用者へ平等で公平な利用を提供。
- ・節電、節水等省エネに努め、環境に優しい運営。
- ・老朽化に伴うトラブルの発生を未然に防ぐよう、専門業者や職員による点検等の実施。
- ・防火・防災に関するマニュアル整備、消防設備の点検、危機管理体制の構築、消防訓練の実施。
- ・個人情報の適正な管理や広島市暴力団排除条例等施設運営に必要な各種法令を遵守。

<ネットワーク>

オペラや演劇などの事業を通じて、地域の文化団体のみならず、他都市のオペラ団体や劇場と幅広いネットワークを構築している。今後の主な計画は、広島市の姉妹都市である韓国大邱広域市との芸術交流の充実である。

また、近隣施設と事業連携や運営協力など良好な相互関係を築き、地域の一員として社会的責任を担うなど適正な運営を行っている。